

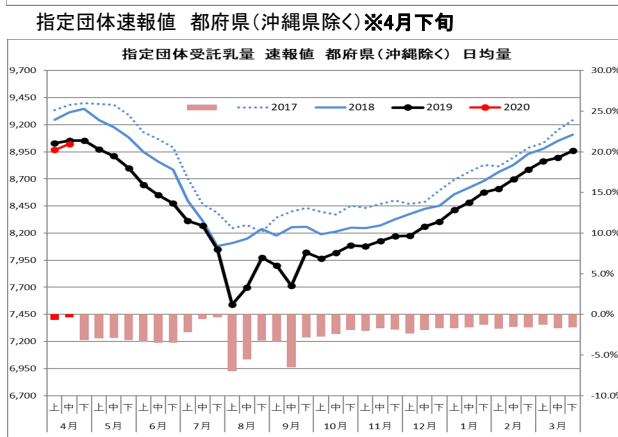
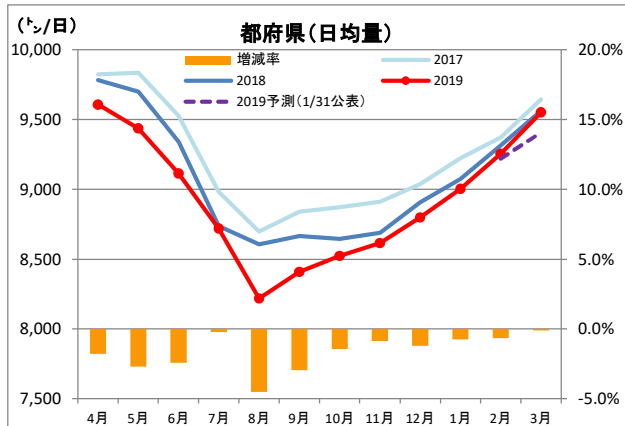
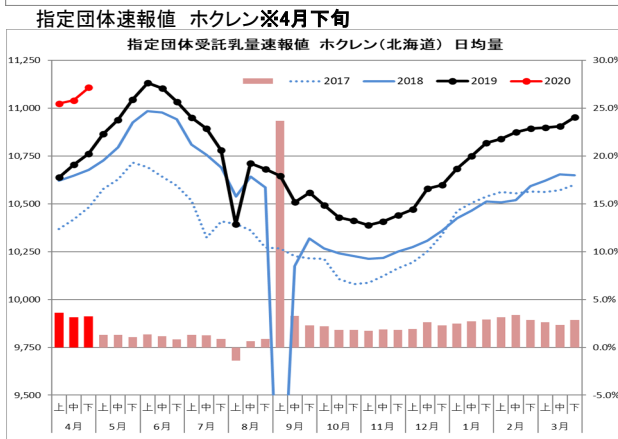
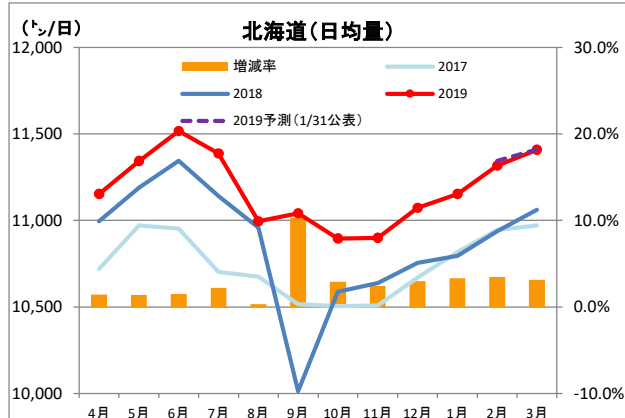
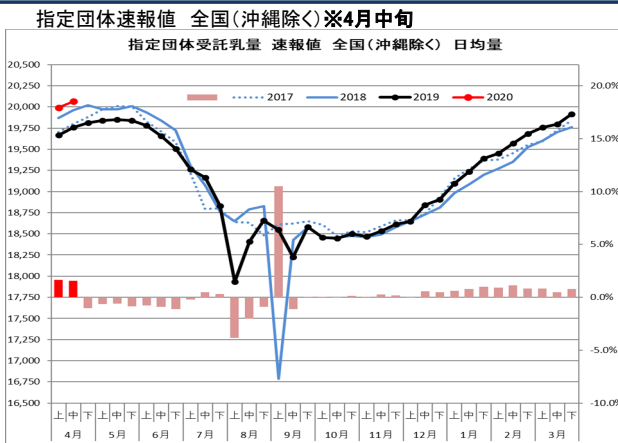
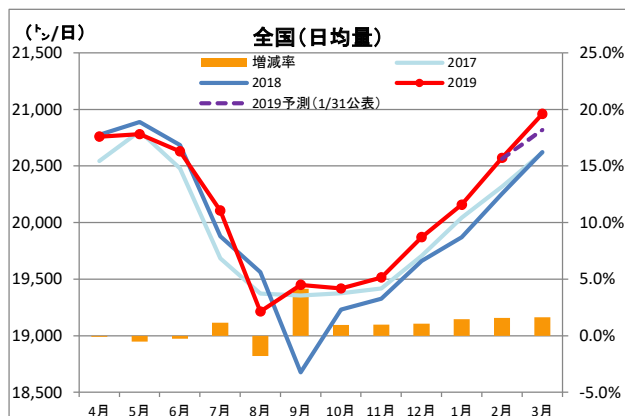
Jミルクが2020年1月31日に公表した「需給見通し(※2019年11月迄実績)」の予測値とその後の実績をグラフ化しています。毎月25日の「牛乳乳製品統計(農林水産省)」の公表に併せて、今後も随時、配信していきます。発行：一般社団法人Jミルク生産流通グループ

《引き続き予断を許さない生乳需給～新型コロナウイルス感染拡大による生乳需給への影響について～》

- 3月の需給実績については、以下に示す通り、新型コロナ感染拡大による学乳停止等の影響を受け、飲用等向の処理が大幅減となる一方、乳製品向が大幅増となった。その結果、脱脂粉乳・バター在庫がさらに積み上がる状況となっており、予測値との大きな乖離も見られる。また、牛乳乳製品以外にも畜産や枝肉市場への影響が大きいことも伺える。
- 一方で、家庭内消費については、以下の直近(4/27週)の動向を踏まえると、農林水産省の「プラスワンプロジェクト」を始め、各般において積極的な家庭内消費の拡大を促進する取り組みが奏功したこともあり、引き続き好調に推移している。
- ただ、5/4に緊急事態宣言が延長され、大消費地を含む特別警戒都道府県(13地域)に対してはこれまで同様の対応が求められていることから、引き続き臨時休業や飲食店等の休業等による業務用を中心とした需要の停滞は免れないため、需給調整が予断を許さない状況にあることは変わらない。
- 特に北海道の生産量がピークとなる5月の下旬～6月初旬には、一段と厳しい需給状況が予想されるため、処理不能乳が発生しないように、国の支援策を活用した上で、業界で一致協力した需給調整、消費拡大に対する強力な取り組みを継続してゆくことが重要である。

【生乳生産量】※増減率は、日均量で算出。

- (1)3月の生乳生産量は、全国650千 $\text{t}$  (前年同月比101.6%)、北海道354千 $\text{t}$  (同103.1%)、都府県296千 $\text{t}$  (同99.9%)。
- (2)全国では、Jミルク予測値(645千 $\text{t}$ )を上回って推移している。
- (3)北海道は、予測値(354千 $\text{t}$ )と同程度となり、引き続き好調に推移している。
- (4)都府県は、予測値(292千 $\text{t}$ )を若干上振れており、生産量は回復傾向にある。



【牛乳等生産量】※増減率は、日均量で算出。

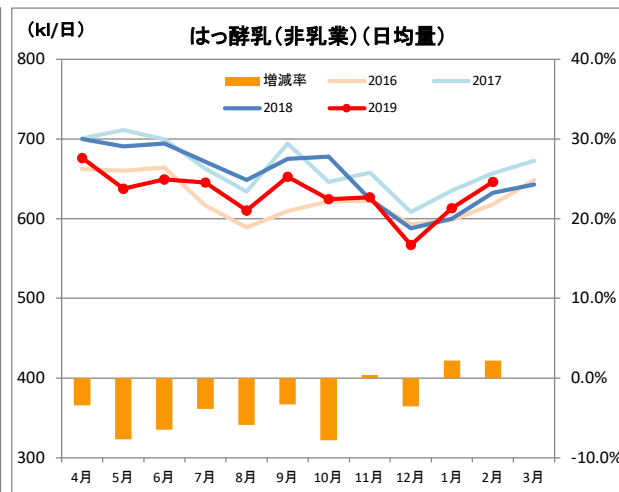
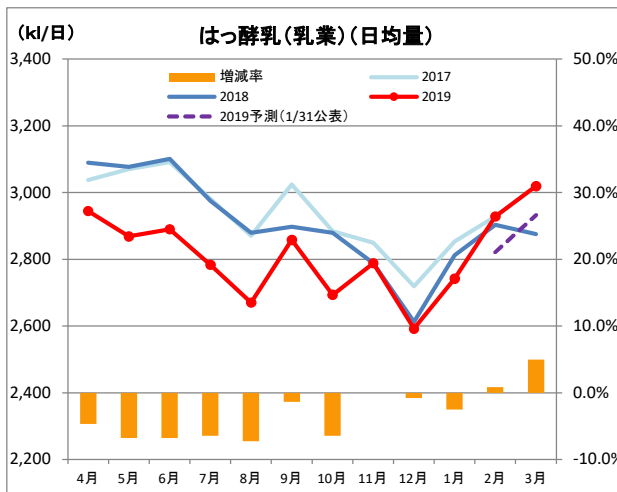
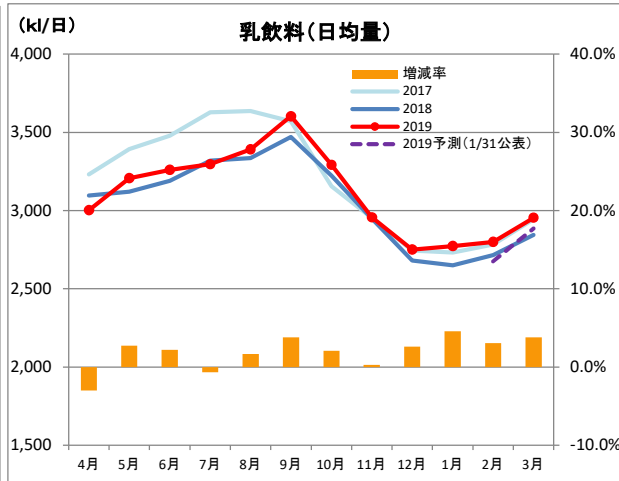
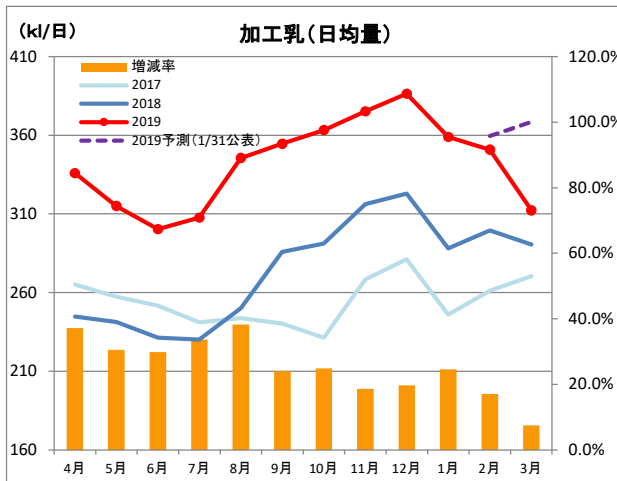
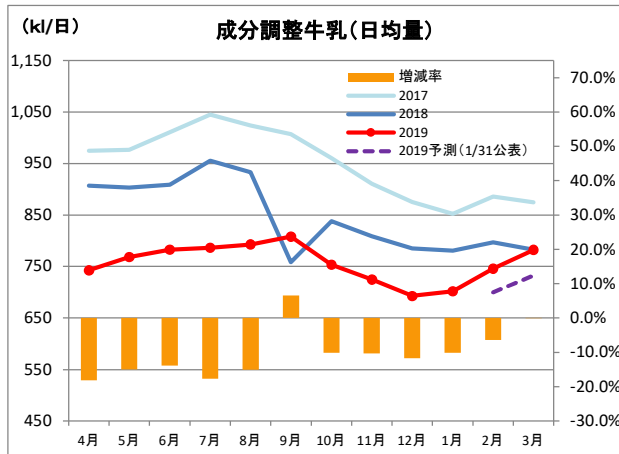
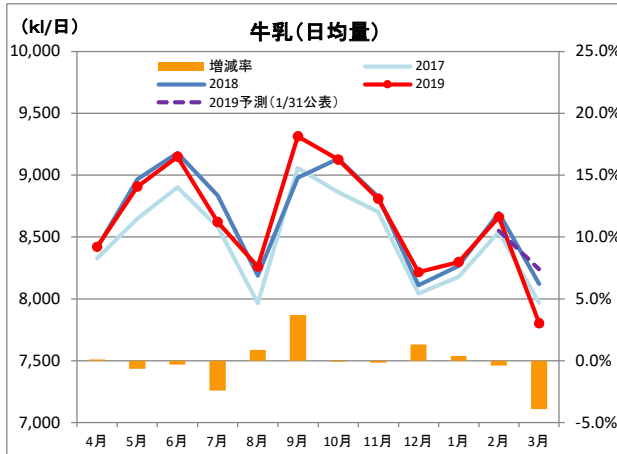
(1)3月の牛乳等生産量は、牛乳242千kl(前年同月比96.4%)、成分調整牛乳24千kl(同99.9%)、加工乳10千kl(同107.4%)、乳飲料92千kl(同103.8%)となり、牛乳類で367千kl(同98.4%)で推移している。

なお、予測値との比較では、牛乳(予測値:255kl)は下振れしているが、成分調整牛乳(予測値:23kl)、加工乳(予測値:11千kl)、乳飲料(予測値:89千kl)、は若干上振れしている。

(2)「牛乳」のうち、「業務用以外」は同106%と前年を大きく上回っているが、「業務用」は同89.6%と前年を大きく下回っている。

(3)はっ酵乳(乳業)は94千kl(同105.0%)、非乳業実績(2月)についても同102.2%と前年を上回っている。なお、はっ酵乳(乳業)は、予測値(91千kl)より上振れして推移している。

※はっ酵乳(非乳業)資料:(一社)食品需給研究センター「食品製造業の生産動向」



【牛乳類の販売速報(推定値):インテージSRI】※量販店・コンビニ等、小売店の販売実績

(1)2019年11月よりデータ対象店舗にドラッグストア業態を追加した。あわせて2007年度まで遡及し更新したため、数値がこれまでと異なることに留意。

(2)3月の動向(表①参照)

・販売個数は、牛乳:前年同月比109.1%、成分調整牛乳:同87.5%、加工乳:同189.0%、乳飲料:同108.8%。

**牛乳類では同107.9%と前年を大きく上回っている。**

・販売単価は、牛乳:189.3円、成分調整牛乳:173.5円、加工乳:182.9円、乳飲料:150.4円。

(3)直近(本年2月~)の動向(表②参照)

・直近(4/27週)の販売個数は、牛乳:前年同期比126.6%、成分調整牛乳:同119.3%、加工乳:同105.3%、乳飲料:同121.2%。

**牛乳類では同124.6%と前年を大きく上回って推移している。**

・販売単価は、牛乳:190.5円、成分調整牛乳:175.0円、加工乳:182.6円、乳飲料:151.3円。

**・前週(4/20週)引き続き、在宅勤務や外出自粛・臨時休校の影響による家庭内需要の増加に加え、関係者による消費拡大の取り組みの効果等によって、前年を大きく上回って推移している。**

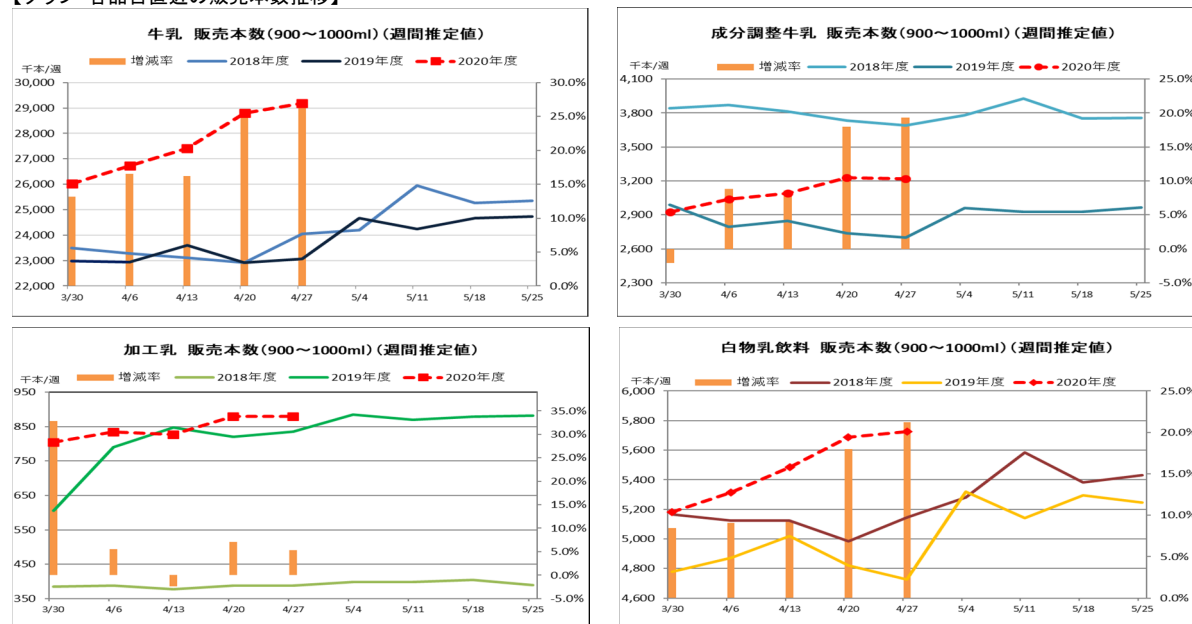
【表① 牛乳類の月別販売動向】

品目	区分	2019/4-	2019/5-	2019/6-	2019/7-	2019/8-	2019/9-	2019/10-	2019/11-	2019/12-	2020/1-	2020/2-	2020/3-
トータル	販売個数	134,835	146,125	146,089	150,712	157,017	153,596	148,298	134,058	136,831	130,706	130,783	148,892
	販売個数前年比	95.8	96.1	96.8	91.6	96.8	100.1	100.8	99.7	99.1	100.8	106.9	107.9
牛乳	販売個数	181.1	182.0	182.1	182.5	183.2	182.6	182.4	181.8	182.0	181.8	181.5	182.0
	販売個数前年比	98.2	97.4	97.8	92.4	98.0	100.5	102.6	100.2	100.0	101.4	107.7	109.1
成分調整牛乳	販売個数	12,089	12,781	12,615	13,213	13,581	13,640	12,364	11,490	11,514	11,016	11,040	12,526
	販売個数前年比	73.5	77.0	78.1	74.8	78.2	105.5	80.7	82.0	80.7	82.5	87.6	87.5
加工乳	販売個数	3,303	3,831	3,805	3,959	3,942	3,972	3,871	3,321	3,286	3,103	3,064	3,449
	販売個数前年比	183.7	180.4	180.3	173.9	178.2	160.1	178.1	180.9	179.3	178.0	188.6	189.0
乳飲料	販売個数	20,772	22,664	23,011	23,648	24,251	24,283	23,838	21,376	20,966	20,172	20,135	22,356
	販売個数前年比	94.2	96.1	98.0	92.2	96.7	90.2	99.0	102.4	100.8	103.7	109.5	108.8
	販売単価	150.3	150.8	150.7	150.6	151.1	151.0	151.4	150.3	150.5	149.9	150.0	150.4

【表② 牛乳類の販売動向(直近の動向)】

品目	区分	2.3-	2.10-	2.17-	2.24-	3.2-	3.9-	3.16-	3.23-	3.30-	4.6-	4.13-	4.20-	4.27-
トータル	販売個数	30,432	31,247	30,644	33,774	32,555	33,491	32,590	34,687	34,935	35,917	36,813	38,603	39,017
	販売個数前年比	101.2	100.7	100.8	110.4	106.4	108.3	105.9	110.3	111.4	114.4	114.0	123.4	124.6
牛乳	販売個数	181.5	181.4	181.8	181.4	182.0	181.9	182.0	182.3	181.9	182.5	182.7	183.0	183.3
	販売個数前年比	22.464	23.070	22.687	24.928	24.150	24.851	24.190	25.793	26.023	26.729	27.412	28.809	29.192
成分調整牛乳	販売個数	101.9	101.3	101.7	111.0	107.8	109.6	106.9	111.5	113.2	116.5	116.2	125.8	126.6
	販売個数前年比	82.4	82.9	81.6	90.7	86.8	87.4	86.4	89.2	97.9	108.8	108.6	118.0	119.3
加工乳	販売個数	173.0	172.2	173.1	172.6	173.7	173.3	173.4	173.9	173.2	173.5	173.4	174.1	175.0
	販売個数前年比	716	734	714	796	755	767	741	805	804	834	827	879	879
乳飲料	販売個数	179.7	176.9	178.2	195.4	183.3	183.9	182.5	190.0	133.0	105.5	97.6	107.0	105.3
	販売個数前年比	182.1	182.0	182.2	182.8	182.3	182.7	182.8	184.7	184.6	184.1	184.7	183.6	182.6
販売単価	販売単価	4,708	4,800	4,688	5,190	4,894	5,056	4,904	5,187	5,182	5,313	5,485	5,686	5,727
	販売単価前年比	103.7	103.1	102.2	113.6	106.4	109.5	107.6	111.6	108.4	109.1	109.3	118.0	121.2
	販売単価	150.1	150.1	149.9	150.1	150.3	150.4	150.5	150.8	150.5	150.3	150.9	151.5	151.3

【グラフ 各品目直近の販売本数推移】





【ヨーグルト類の販売速報(推定値):(一社)Jミルク調べ】※量販店・コンビニ等、小売店の販売実績

- (1)直近(本年2月～)の動向(表①参照)  
 直近(4/27週)の販売個数は、ドリンクタイプ(100～250ml):前年同期比110%以上、個食タイプ(70～130ml):同110%以上、大容量タイプ(350～500ml):同130%以上。
- (2)機能性ヨーグルトを中心に免疫カアップに対する期待や、ヨーグルトがテレビ番組で取上げられた影響もあり、引き続き好調に推移している。特に個食タイプ、大容量タイプについては前週(4/20週)よりもさらに大きく伸びている。

【表① ヨーグルト類の販売動向】

品目	2.3-	2.10-	2.17-	2.24-	3.2-	3.9-	3.16-	3.23-	3.30-	4.6-	4.13-	4.20-	4.27-
ドリンクタイプ	↘	→	↗	↑	↗	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑
個食タイプ	↘	↘	→	↗	↘	→	→	→	↗	↗	→	↗	↑
大容量タイプ	↘	↘	↘	↑	→	↗	↗	↗	↑	↑	↑	↑	↑

-  :前年比90%未満
-  :前年比90%以上100%未満
-  :前年比100%以上105%未満
-  :前年比105%以上110%未満
-  :前年比110%以上120%未満
-  :前年比120%以上

※なお、下地の色が濃いほうが、上記範囲内で前年との増減差が大きいことを表す。

《その他参考情報》

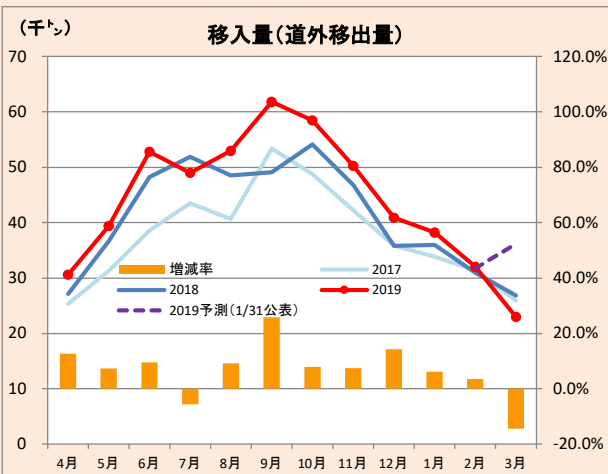
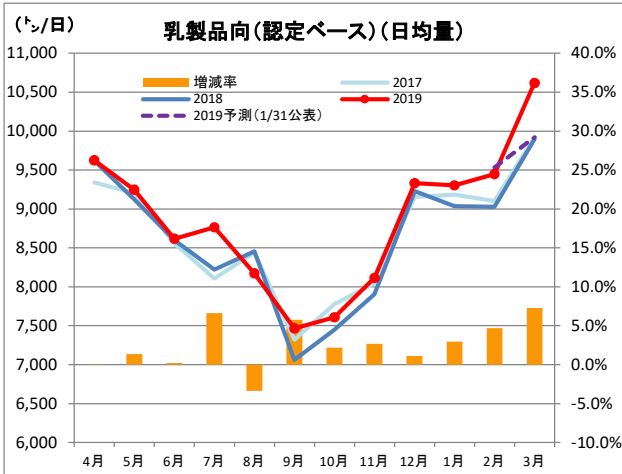
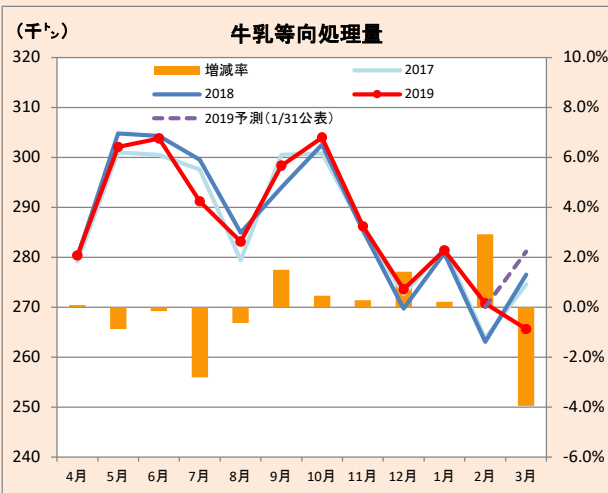
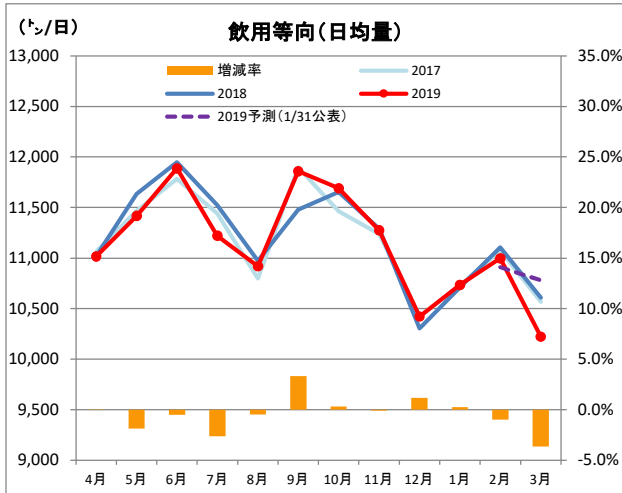
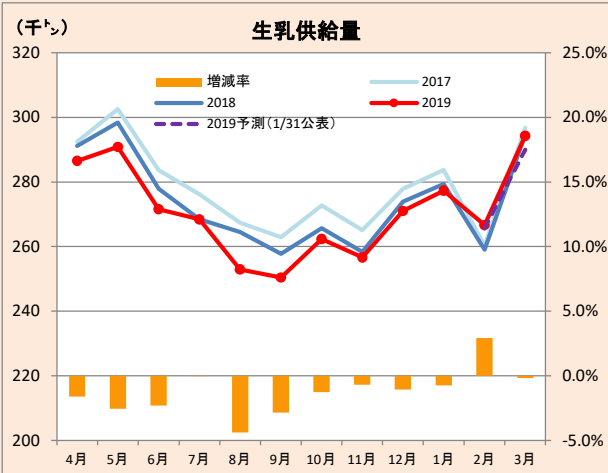
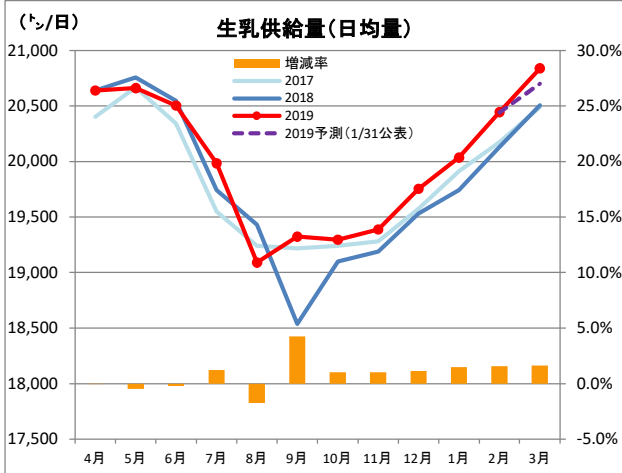
- ・新型コロナウイルス関連情報について(各種情報をJミルクHPに掲載)  
<https://www.j-milk.jp/knowledge/nutrition/h4ogb4000003azz.html#hdg1>
- ・日本の牛乳を救う「プラスワンプロジェクト」  
 農林水産省は、酪農家を支えるため、牛乳やヨーグルトを普段より1本多く消費することを推進する「プラスワンプロジェクト」を4月21日より開始した。  
 農林水産省HP:[https://www.maff.go.jp/j/chikusan/gyunyu/lin/dairyinfo\\_corona.html](https://www.maff.go.jp/j/chikusan/gyunyu/lin/dairyinfo_corona.html)  
 メッセージ動画「牛乳乳製品課からのお願い」(外部リンク:YouTube)  
<https://www.youtube.com/watch?v=NIIPhHst-nU>

【用途別処理量】 ※増減率は、日均量で算出。

(1)3月の生乳供給量は646千トン(前年同月比101.6%)、飲用等向317千トン(同96.3%)、乳製品向(認定ベース)329千トン(同107.3%)。  
 (2)予測値との比較では、生乳供給量(予測値:642千トン)は若干上振れして推移している。飲用等向(予測値:334千トン)は下振れしていることから、乳製品向(予測値:308千トン)は上振れして推移している。  
 (3)北海道の生産は好調であり、都府県についても回復傾向にあるため、今後も生乳供給量は前年を超えて推移することが予測される。

【都府県の生乳需給】 ※増減率は、日均量で算出。

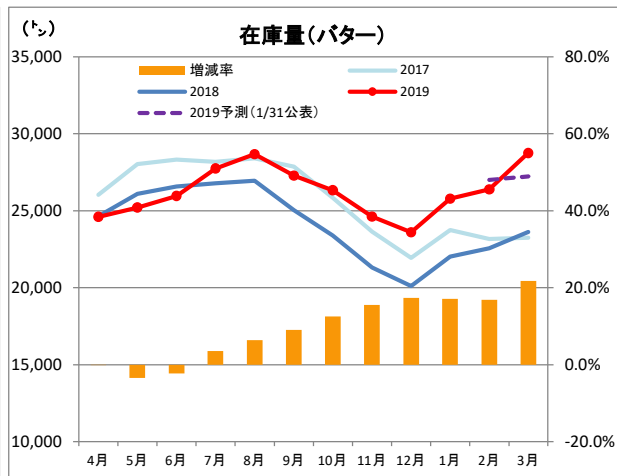
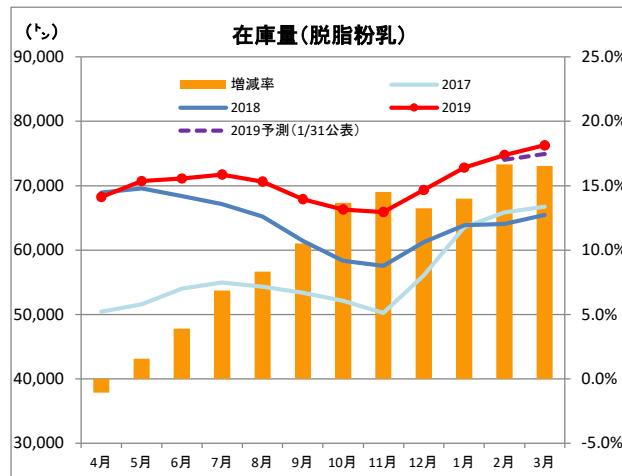
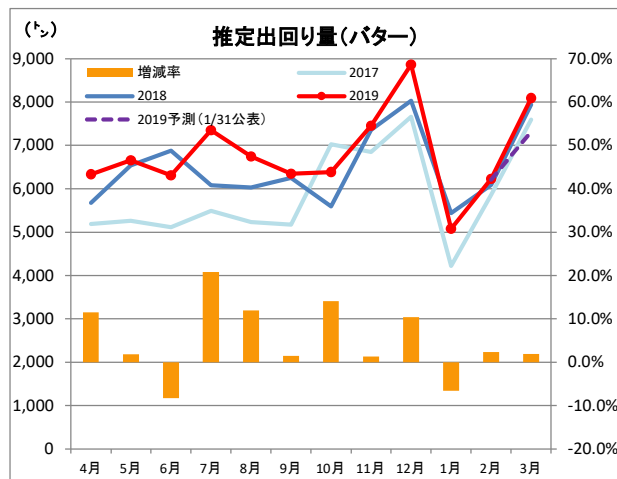
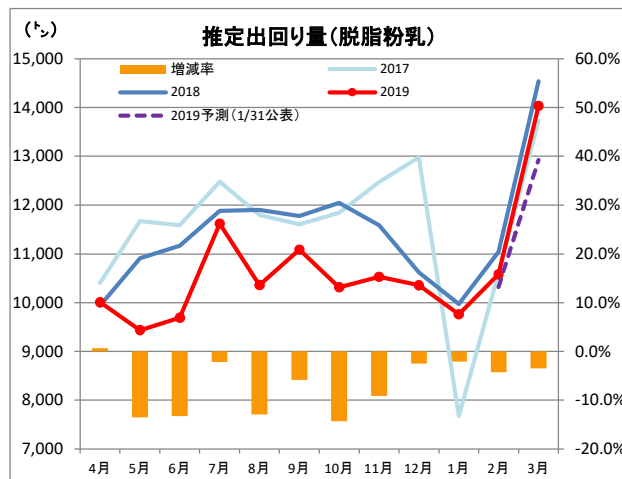
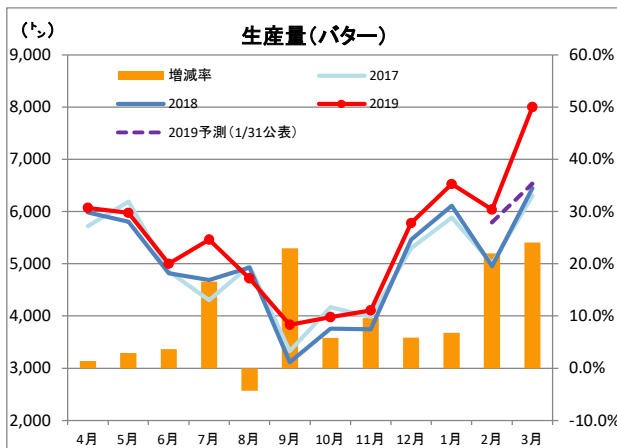
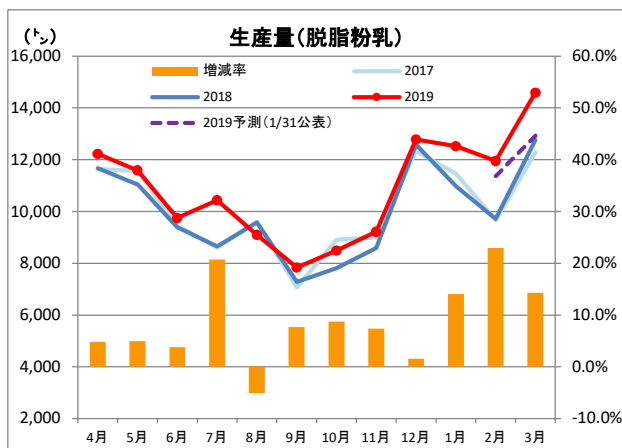
(1)3月の生乳供給量294千トン(前年同月比99.8%)、牛乳等向266千トン(同96.1%)、北海道からの移入量については、23千トン(同85.6%)。  
 (2)予測値との比較では、生乳供給量(予測値:290千トン)は上振れしているものの、牛乳等向(予測値:281千トン)、北海道からの移入量(予測値:36千トン)は大きく下振れしている。



【脱脂粉乳・バター需給】 ※増減率は、日均量で算出。

(1) 脱脂粉乳は、3月の生産量は14.6千トン(前年同月比114.3%)、推定出回り量は14.0千トン(同96.5%)、その結果、在庫量は76.3千トン(同116.5%)。推定出回り量(≒需要量)は前年を割り込み、11ヶ月連続で前年割れ。  
 なお、予測値との比較では、生産量(予測値:12.9千トン)、推定出回り量(予測値:12.9千トン)、在庫量(予測値:74.9千トン)全てにおいて上振れして推移している。

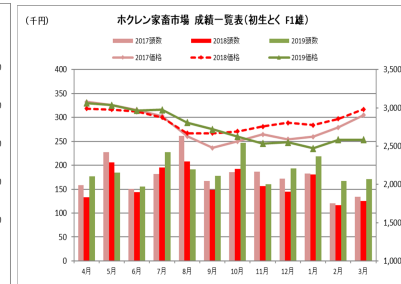
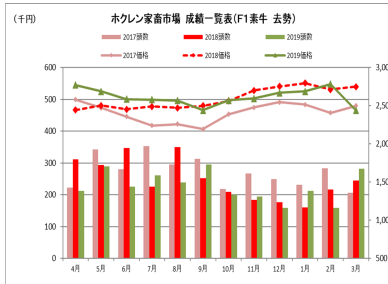
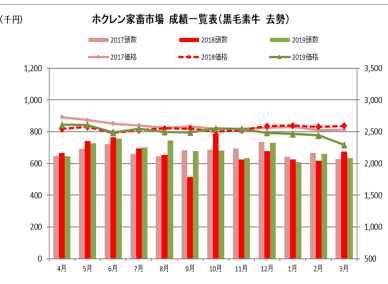
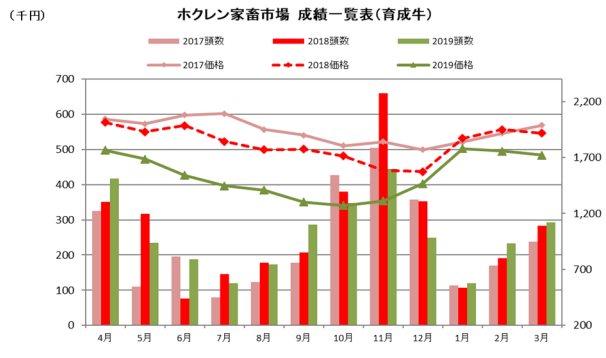
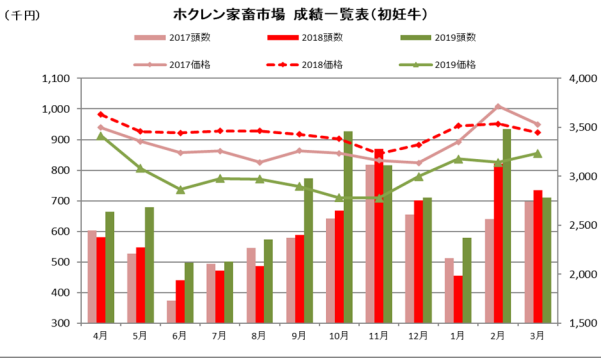
(2) バターは、3月の生産量は8.0千トン(同124.1%)、推定出回り量は8.1千トン(同101.9%)、その結果、在庫量は28.8千トン(同121.7%)。  
 推定出回り量(≒需要量)は堅調に推移。  
 なお、予測値との比較では、生産量(予測値:6.5千トン)、推定出回り量(予測値:7.3千トン)、在庫量(予測値:27.2千トン)全てにおいて上振れしている。



【家畜販売価格動向】

(1)3月の家畜販売価格動向について、ホクレン家畜市場集計によると、初妊牛価格は855千円(前年同期比92.6%)、育成牛価格は484千円(同88.6%)、和牛素牛(去勢)価格は718千円(85.7%)、F1素牛(去勢)価格は465千円(同86.1%)、F1初生(雄)価格は253千円(79.8%)。  
 (2)上場頭数(出回り頭数)は、初妊牛:同97.4%、育成牛:同103.0%。また、F1初生(雄):同116.2%、F1素牛(去勢):同110.3%と大きく増加しているが、和牛素牛(去勢):同95.3と大きく減少。

※ホクレン家畜市場集計表 速報値(<https://www.kachiku.hokuren.or.jp/Downloadresult.aspx>)



【枝肉市場の動向】

(1)3月の枝肉市場価格動向について、黒毛和牛は2,033円/kg(前年同月比82.2%)、F1(交雑種)は枝肉価格1,314円/kg(前年同月比82.3%)と前年を大きく下回っている。

(2)取引成立頭数について、黒毛和牛:33,611頭(前年同月比94.9%)、F1(交雑種):18,080頭(前年同月比92.9%)と前年を大きく下回っている。

※農林水産省「食肉流通統計」。

